

1:出席者

加藤^a・大西^b・岡部・片山・千葉・能登・平林・吉田^c・大塚^{c,d}
(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2:報告

- コーディングマニュアルの作成を大林・合川で行なうこととなった。(吉田)
- 次回の IAEA 会議までに 1998 年度分(更新)が 6 編、1999 年度分(新規)が 4 編、2000 年度分は 20 編、計 34 編の EXFOR への変換を目標とする。(吉田)
- 人事往来
 - ・ COE 研究員…大塚、近江(来年3月迄)、大林(本年4月迄)
 - ・ 招聘…Filippov 氏(10-12月)、Lohdi 氏(2ヵ月)
 - ・ 派遣…大西(BNL)(加藤)
- 研究員の役割については大塚は評価と簡単な変換、近江はエディタの開発、大林は大塚とともに変換をそれぞれ行なう予定である。(加藤)

3:議論

- 年次報告分担
以下の構成とする。原稿メ切は5月21日。
 - ・ 巻頭言(加藤)
 - ・ Schwerer シンポジウム(加藤・大林)
 - ・ CONTIP の進展と今後(大林)
 - ・ IAEA センター長会議報告(千葉)
 - ・ NTX 開発報告(千葉)
 - ・ 辞書 WG 報告(能登)
 - ・ NRDF と EXFOR の対応(片山)
 - ・ Descouvemont 氏との議論(大西・大林)
 - ・ 謝辞(加藤・吉田)
 - ・ 作業記録(吉田)
 - ・ 業績一覧(編集委員)
- NRDF コード追加
RUTH-RATIO:Rutherford 散乱断面積に対する相対断面積

4:次回

2001年5月21日 17:30 より

1:出席者

加藤^a・大西^b・岡部・片山・千葉・能登・吉田^c・大林^c・大塚^{c,d}
(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2:報告

- 大林は5月14日に室蘭工大のCOE研究員に着任した。今後もボランティアとして核データ活動に加わる。(大林)
- 評価システム構築の第一歩としてリクエストされた反応系のシミュレーションをするオンライン計算システムを大塚が開発した。(大西)
- 今年度のEXFORへの変換は10編が目標である。うち1998年分が6編、1999-2000年分が4編である。最初に形式的変換を大型計算機センターのシステムを用いて行なったものを手で修正するという方法をとっている。(吉田)

3:議論

- IAEA テクニカルミーティング
以下を昨年度の活動として報告する。
 - ・ NRDF コンパイル 15 編
 - ・ EXFOR への変換 30 編 (含更新)
 - ・ IntelligentPad による EXFOR/NRDF 利用システム開発
 - ・ 荷電粒子データの利用拡大検討 (NACRE のミラー構築計画)
 - ・ 変換システム作成
- 今年度の中心課題
大型計算機センターでの開発をワークステーション上で IntelligentPad や Web を活用した開発に移行する。
- NRDF コード追加
 - ・ TRNSF-SPIN: スピン移行
 - ・ JPNRIK などの追加を行なう。
- NRDF コーディング規則
 - ・ ウムラウト記号は無視する (例 ö → o)。
 - ・ 上付き下付き文字に TeX 記法を用いることを認める (例 2_1^+ → 2^{+}_1)

4:次回

2001年6月25日 17:30 より

1:出席者

加藤^a・大西^b・岡部・千葉・能登・平林・吉田^c・大塚^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2:報告

- 2000年度年次報告は7月10日頃完成予定、約130ページ(能登)
- IAEA会議に参加した。詳細は資料参照のこと。
 - ・ CINDA, EXFOR, ENDFの統一について議論された。
 - ・ JPNRIKなどの機関コードについて議論した。
 - ・ デジタイザーシステムの海外普及を考える。(加藤)
- 10編(-1998年度:6編、1999年度:4編)をEXFORに変換してIAEAに送付した。変換率は8割。1999年の10編と2000年の15編については手つかずである。2001年以降分はNRDFとEXFORを同時作成していく予定である。(吉田・大塚)
- 送付した10編はほぼ受理される見通しである。偏極量については大丈夫であるが、相関量については議論が必要かも知れない。(大林)

3:議論

- RCNPで得られた数値データの提供依頼
Physical Review に関しては論文掲載とともにデータの提供を受けられるようにBNL-NNDCが計画している。我々のグループとしては(著者校正の実現と絡めて)RCNPの実験での数値データが得られるように依頼をする(承認)。
- 共通実験条件の括り出し
共通実験条件については全てのデータセクションに共通なものは括り出すことにするが、それ以外のものについては括り出さなくてもよいこととする(冗長性を許す)。
- 今年度のメイン活動
 - ・ 著者校正を実現させることを目標とする。

4:次回

2001年7月23日 17:30より

1:出席者

加藤^a・大西^b・岡部・片山・千葉・能登・吉田^c・大塚^{c,d}
(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2:報告

- 核データ国際会議(筑波)に10月8日~13日の日程で参加する。(加藤)
- 去る7月はじめに年次報告を文部省に提出した。核データ事業費は来年度以降なくなる予定であり、科研費による予算確保を考えている。(加藤)
- BNL-NNDCのMcLane氏が10月22日に来札の予定である。(加藤)
- 日本原子力学会が9月19日~21日の日程で北大で行なわれる。(加藤)
- COE研究員に内藤氏(理研)を採用する方向で検討中である。(加藤)
- 今年度20編の変換を目標にしており、うち6編に着手している。直接テキストを編集する方法とエディタを用いた方法を併用している。(吉田)
- 大型計算機センターのVOS3が来年3月1日をもって廃止される。古いデータの変換をどうするか考える必要がある。(千葉)
- ウェブを用いたエディタの試作品が完成した。(大塚)
- 辞書作業部会でマニュアルやエディタの整備、H型辞書の作成、著者校正の実現、変換規則の確立について議論した。(能登)

3:議論

- ウェブエディタの運用
今年度試用しながら経験を積んで改良する。
- コーディング完成の流れ
従来の2人同時にコーディングする方法は能率が悪いので、これをコーディング者とチェック者に分け、さらに運営委員会にはどちらか1名が結果報告のために参加する。チェック者も必ず論文を読む。
- RCNPからのデータ提供依頼について
RCNPへの依頼を同センターの研究計画委員会を通じて行なう。

4:次回

2001年10月29日 17:30より

1:出席者

加藤^a・大西^b・片山・千葉・平林・大塚^{c,d}
(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2:報告

- 科研費(データベース)申請を行った。(加藤)
- 核データ国際会議(筑波)に加藤・千葉・大林が出席、大林が発表を行った。核物理と核データの距離が近くなったと感じられる。次回は3年後にBNLが主催。(加藤)
- VBL COE 研究員 理研内藤謙一氏に決定。(大西)
- コーディングのチェックを Web エディタで行った。(平林・片山)

3:議論

- IAEA からの問合せ
McLane(BNL)に CP-C/295 (4元運動量移行のコードに関する提案)に同意する旨報告する。助言委員にも報告する。
- 今年度の報告書の構成
 - ・ 巻頭言 (Filippov)
 - ・ エディタ (大塚・近江)
 - ・ ウェブ計算システム (大塚)
 - ・ 国際シンポジウム (大林)
 - ・ 最近のデータ動向 (内藤?)
 - ・ IAEA 会議報告 (加藤・大林)
 - ・ 今年度データ収集実績 (吉田)
- コーディングチェック
 - a) D1735 (平林)
Excitation Energy Spectrum の測定角度の広がりを THTL と DELTA-THTL で現すことにする。
 - b) D1745 (片山)
加速器・検出器・誤差の評価に関する記述を加える。

4:次回

2001年11月26日 17:30より

1:出席者

加藤^a・大西^b・岡部・片山・千葉・能登・平林・内藤^c・大塚^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2:報告

- 内藤氏が VBL の COE 研究員に着任した。(大西)
- D1735 と D1745 の委員によるチェックが終了した(片山・平林)
- VBL から予算 500 万円がついた。今年度のプロジェクト(シミュレーション)の研究用に並列計算機(PentiumIV×8)、自宅作業環境改善のためにノートパソコンを3台、デモンストレーション用にプロジェクターを1台購入予定。(大西・加藤)
- 既にコーディングされた NRDF のファイルを Web エディタに読み込む機能を試験的に追加した。(大塚)

3:議論

- Web エディタ HENDEL の仕様について
 - 新規ファイル編集機能の部分については新しい試みとして了承する(βバージョン)
 - 既コーディングファイルの再編集機能の部分については、必要な情報が完全にエディタに反映されるかどうか確認を進める。
- 登録履歴の整備
各論文の登録作業の履歴作成を学生にアルバイトでやってもらう。
- ワークステーション JCPRG の整備
meme からのファイル移動などについて次回以降に議論する。

4:次回

2002年1月15日 17:30より

1:出席者

加藤^a・大西^b・岡部・千葉・能登・平林・伊藤^c・鈴木^c・内藤^c・大塚^{c,d}
(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2:報告

- EXFOR の 2002 年 Technical meeting が 5 月 27 日から 30 日までパリで行われる。議題があれば提案されたい。(加藤・千葉)
- 吉田さんの家庭の事情により、吉田さんの勤務を週前半に集中させる。(加藤)
- H 型辞書の整備を月曜の WG で開始した(能登)
- 履歴情報の入力書式についての議論を月曜の WG で継続中である。(能登)
- VBL 来年度予算申請の時期になっている。ポストクは 2 名申請の予定。派遣・招聘の希望を受け付けている。(大西)
- D1535 の縦軸の一部に関して著者より図の誤りの報告を受け、これに沿ってコーディングされたファイルの一部を修正した。(平林)

3:議論

- D1755 コーディング結果検討
反応式における残留核の記述は NRDF では物理的な残留核を、EXFOR は最も重い核(粒子)を残留核として取り扱う。
- 標的の物理的形状、バックキング、偏極の入力について
 - ・ 標的の物理的形状：特記されていない時は自明であれば Solid、そうでなければ X
 - ・ バックキングの有無：特記されていない時は X と記入
 - ・ 偏極の大きさ：特記されていない時は 0%と記入
- ワークステーション JCPRG の整備
meme からのファイル移動などについて大林氏のいる時に相談する。

4:次回

2002年2月18日 17:30より

1:出席者

加藤^a・大西^b・岡部・千葉・能登・平林・合川^c・鈴木^c・吉田^c・大塚^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2:報告

- 今後のIAEAの会議は Center Head Meeting と Technical Meeting を合わせた形で行い、センター毎の出席人数を制限しないこととなった。(加藤)
- 来年度より大型計算機センターのデータベース委員が加藤から大西に変わる。(加藤)
- 大計センターの U10031 の中身を CD-R に記録した。利用希望者は吉田まで。(加藤)
- D248 について OECD/NEA から問い合わせがあった。OECD/NEA ではこの論文を我々の採録とほぼ同じデータ量で既に EXFOR 形式でコーディングしている。JCPRG で読み取ったデータの幾つかは定性的に問題があり、再読み取りが必要である。(加藤)
- 今年度収録件数は 24 編を予定。内 15 編はコーディング終了。残り 9 編のうち 2-3 本以外はコーディング作業に入っている。(吉田)
- NRDF の問題のあるコードをリストアップし、個別検討を進めている。(能登・大塚)
- 東北大中村研より Thick Target Yield に関する論文数本の数値データを頂いた。この中には日本原子力学会の欧文誌 Nuclear Science and Technology のものも含まれている。今後この雑誌も採録対象としてはどうか?(大塚)

3:議論

- D1736 コーディング結果検討
2種の厚さの標的を用いている場合には (XMG/CM2, YMG/CM2) の形でコーディングする。
- D1747 コーディング結果検討
表題と本文中標的核の核種が違う。→著者に問い合わせる。
3BANBAN:展開形の”Bangla Desh”は”Bangladesh”の間違い。OECDに連絡。
2JPNKYU:展開形から”Dept.of.Nucl.Eng.”を外す。EXFORも修正。
2JPNTKS/2JPNKIT:EXFORにある徳島大・産業医科大をNRDFのコードにも追加。
- 年次報告: 題目(ページ数)と原稿締切
巻頭言(1)/IAEA 会議報告(4)/辞書 WG 報告(4)/データ動向(5)/エディタ(15)/評価システム(4)/国際シンポ原稿(10)/採録実績(6)/議事録(10)。

4:次回

2002年4月8日 17:30 より